

ナイフを凶器にするな

ナイフが大好き。なんて言うと近頃の世相から、物騒な話はよしてくれと叱られそうだが、昔から、洋の東西を問わず、ナイフは男が好きなものの一つなのだ。女の子が可愛い人形や洋服が大好きなように。

それが今は凶器の代表みたいに見られているのは、実は大層残念で仕方がない。

先日千歳空港から羽田へ向うのに、持物検査を通ろうとすると、「不用の危険物はここに棄ててほしい」という意味のことが書かれている箱が置いてあって、その中にカッターナイフだとか、はさみだとか、電池だとか、無雑作に投げ入れてあった。中に一本刃渡り十五cmほどの山刀ふうのものまであった。確かにこれがそのまま飛行機に持ち込まれたら、無気味には違いない。旅行を中止して家に持ち帰ってやりたいくらい惜しい気持ちになった。欲しいのではなく、何となく棄てられたナイフが悲しそうだったのだ。

私の持ってる一丁に他機能のスイス陸軍アーミーナイフがある。赤い柄に白い十字のついた、たぶん男なら誰でも知っているやつで、若い頃友達と機能の数を比べあったり、切れ味を自慢しあったりしたものだ。

登山にしろ、小旅行にしろ、これ一本あれば何にでも使えるサバイバル。ナイフ・ドライバー・はさみ・コルク抜きに栓抜き、缶切りに爪楊枝までついている。

二十年も以前だろうか、一人旅でトルコのイスタンブールまで行く仕事を与えられた。日本の航空会社は当時そこまで行っておらず、ドイツの空港でヨーロッパの飛行機に乗り換える必要もあった。ドイツ語どころか英語さえおぼつかないというのに一人旅。仕度の出がけに、何となく役立つ筈とこのアーミーナイフをポケットに入れた。実はこれが大失敗。

ナイフをしのばせた男を飛行機に乗せてくれるわけがない。千歳・成田・フランクフルトとその都度“機長預り”という措置で、袋づめにして乗務員に取り上げられた。

なぜ持ち込もうとしたのかの説明で冷や汗のかきっぱなし、でもとうとう最後まで手放しはしなかった。ナイフが可愛くて仕方がなかったのだ。途中で棄てるなんてとてもとても。私にはナイフを凶器に使う人間の気持ちがわからない。